

小學經濟訊

大谷權二郎著

卷下

89
福岡第一師範學校
(學校圖書)

容 量	第	號
社	會	科
經	濟	部
總	記	項
目	次	
全	冊ノ内第	冊
分	類	號
第	330.1	

24911

校學館國圖和経経

書門
部
番
冊ノ内
2

T1A1

23

O 84

○小學經濟訓卷之下

大谷權二郎、著

○交易編

○第一章 捌ケロノ事

物ヲ製造スル者、大概自ラ之ヲ消費セズ、之ヲ他
ニ與ヘ、以テ貨幣ト易ルヲ常情ト為ス、此授受ノ
所作ヲ名テ、賣買ト云ス、蓋シ、貨幣モ亦一ノ物品
タルニ過ズ、故ニ、物産ト易ル者ハ、其貨幣タルト、
又ハ他ノ物品タルト、ノ別ヲ論ゼズ、凡ソ一物ヲ
他ノ一物ト易レバ、則廣ク之ヲ稱シテ、交易ト謂

ス、而テ交易ノアル處、之ヲ捌ケロト呼ブナリ
世人或ハ思ヘラク金融ノ善キ所ハ捌ケロノ善
キ處ナリト是レ大ナル誤謬ナリ、抑捌ケロヲ開
ク者ハ、何ゾヤ、物産ナリ、貨幣ニ非ルナリ、然バ則
物産ノ饒多ナル處ハ、即捌ケロノ善キ所ナリト
謂可シ、夫レ、貨幣ノ用ハ、猶ホ車ノ用ノ如シ、車能
ク物ヲ運搬シ、貨幣能ク物ノ交易ヲ媒介ス、若シ
車ニ載スルノ物ナク、貨幣ヲ以テ交易スルノ物
ナクンバ、則車ト貨幣トノ用ナキナリ、貨幣ノ少
キハ、適以テ物産ノ饒多ナルヲト知スルニ足ル

トアリ、車ノ少キハ、之ニ藉テ運搬スル、貨物ノ多
キヲ證スルトアルト、同一理ナリ
製産物ハ、其價ノ大小ニ應ジテ、他ノ物品ニ、捌ケ
ロヲ促ス、例バ、製帽職帽ヲ製セバ、則速ニ之ヲ賣
ラント欲ス、而テ之ヲ賣レバ、更ニ製帽ノ元糧即
羅紗等ヲ購ハザル可ラス、羅紗高モ、亦然リ、之ヲ
賣レバ、之ヲ仕入レザル可ラス、賣ト、買ト、環ノ端
ナキガ如シ、之ヲ要スルニ、賣物ハ買物ヲ勵ス者
トナス

○第二章 製産ノ利害ハ互ニ相關スル事

時ニ物産ノ賣レザル者アリ、何ニ由テ然ル乎、或曰、其物品ノ供給、需要ノ度ニ過ルニ由ルト、是未ダ真ノ源因トスルニ足ラズ、真ノ源因ハ、蓋シ、物ノ賣レザルハ、他物ノ之ト匹敵シテ充分ナラザルニ由レ以、今夫レ、戦争事變ハ、物産ヲ害スルヤ、大ナリ、此時ニ當テヤ、製産者、多クハ、其業ニ安ゼズ、物ノ製造、固ヨリ以テ平時ノ如クナル能ハザルナリ、此ニ於テ乎、互ニ他物ノ購買力ヲ減ズ、其中、或ハ平時ニ異ナラザルノ物産ヲ造出スル者アリト雖、其善ク賣レザルハ、勢ノ自然ナリ、此ニ

餘アリト雖、彼足ラズ、焉ゾ其能ク交易スルトアラニヤ

此ニ由テ之ヲ觀レバ、製産者ノ利害ハ、互ニ相伴フ。皆ナリ、他ノ製産萎靡セバ、則一製産繁盛ナル一能ハズ、然ルニ、或曰、一人ノ利ハ、一人ノ害ヨリ來ルト、安見モ亦極マレリ、一人ノ利、一人ノ害ヨリ來ルハ、物ノ變ナリ、物ノ常ハ、則我ノ利ハ、他ノ利ト相離レザルナリ、富饒活潑ナル人衆ノ中ニ非レバ、利ヲ収ムルヲ、大ナラズ、藝能アル者、利ヲ射ントシテ、繁華都會ニ輻湊スルモ、職トシテ是

理ニ由レリ

啻ニ一人ノ利害然ルノミニ非ズ、一國ノ利害モ亦自ラ然リ、隣國繁盛ナラザレバ、其國幸榮ナル能ハズ、無智ノ輩、或ハ謂ヘラク、隣國ヲ衰亡セシムルハ、自國ノ利ナリト、是レ未ダ國利ノ本因ヲ知ラザルノ言ノミ

○第三章 運輸

物産ノ流通ニ、最モ功アル者ヲ、運輸ノ業トス、製産者ハ、之ニ依テ、其物産ヲ善價ノアル所ニ致シ、且ツ、容易ニ之ヲ賣ル可ク、消糜者ハ、之ニ依テ、其

土地ニ無キ物、或ハ其土地ニ有ト雖、高價ナル物ヲ、容易ニ、且ツ低價ニ、得ルノ益アリ

陸地ノ運輸ニ於テ、其最モ單純ナルハ、人ノ肩ヲ以スル者、是ナリ、之ニ次グ者ヲ、牛馬車ノ運輸トス、而テ其便益ノ最モ大ナルハ、鐵道ノ運輸ニ若クハナシ、又水路ノ運輸ニ於テハ、人ノ肩、又ハ牛馬ヲ以テ舩ヲ牽ク者アリ、帆舩ヲ以スル者アリ、而テ近代ニ至テハ、汽舩ノ運輸、甚タ盛ニシテ、其利モ亦大ナリ

水運ハ、孰ノ國ニ於テモ、大概之ヲ利用ス可シ、若

シ夫レ、陸運ハ、道路ノ善良ナル國ニ非レバ、其利大ナルヲ能ハザルナリ、今一例ヲ舉テ、之ヲ示サニ、六足ノ馬ヲ以テ牽ク車ハ、大凡百人ノ勞ニ均シキ用ヲ為スヲ常トス、然レモ、道路ノ好悪ニ依テ、一ト七トノ差アリ、即道路好ケレバ、七百貫目ノ物品ヲ運搬スルヲ得ト雖、若シ道路悪ケレバ、百貫目以上ノ物ヲ牽クヲ能ハズト云フ、道路ノ改良セザル可ラザルヤ、以テ觀ル可シ

○第四章 運輸ノ三要

水陸運、孰レヲ最モ利アリトスル乎、曰土地ノ形

狀ト運輸ノ大小、緩急等ニ依テ、其利同ジカラズ、但シ、之ヲ約言セハ、凡ソ運輸ニ三要アリ、一ニハ速疾、二ニハ常恒、三ニハ廉價是ナリ

第一 速疾ヲ以テ言ハ、水運ハ、瀛船ヲ最モ利ト為ス、瀛船ノ運輸ハ、神速ニシテ、時ヲ失フヲ少キノ以ナリ、蓋シ、時ハ金ナリ、故ニ、時ヲ失フヲ少ケレバ、利ヲ得ルヲ多シ、且、航海ニ患トスル所ハ、食糧場所等ノ費用ノ嵩ムニ在リ、瀛船ニ頼テ航海セバ、其費ス時間、少ギガ故ニ、費用大ニ減ズ、陸運ニ於テハ、鐵道又ハ馬車ニ依ルヲ利トナス、

蓋シ、亦、其速疾ナルヲ以ナリ、魚肉ノ如キ、腐陳シ
易キ物、或ハ急速ヲ要スル事ハ、特ニ鐵道ノ運輸
ニ依テ、大ニ利アリ

第二 常恒トハ、運輸ノ規律、善ク立テ、其間斷ナ
キニ在リ、此條ニ依テ言ハバ、暖國ニ於テハ、水陸
或ハ擇ブ所ナシト雖、寒國ニ於テハ、則水運ノ利
ハ、陸運ノ利ニ若ズ、何トナレバ、寒國ニ於テハ、冬
時、氷雪ノ為ニ、河水海路ノ杜絶スルヲアルヲ以
ナリ、北米ニ於テハ、是ノ患、殊ニ甚太シト云フ
第三 廉價ヲ以テ言ハバ、堀割、又ハ河水ノ運輸

ヲ利トナス、何トナレバ、二者ニ依レバ、運輸ノ費
用、鐵道ニ依テスルヨリモ、數倍乃至十數倍、低廉
ナルヲ以ナリ、鐵道ヲ築造セントセバ、巨額ノ資
本ト、勞カト、ヲ要ス、是ヲ以テ運輸ノ價、高シ

○第五章 物價ハ供給需要ニ隨テ高低ス
世人或ハ謂ヘラク、物稀ナレバ、則其價高シト、是
レ未ダ妥當ノ説ニ非ズ、物甚タ稀ニシテ、而テ價
ノ殆ント無キ者、尠シトセザルナリ、然レバ、物價
ノ高低、果シテ何ノ理ニ依ルヤ、曰物價ノ高低ハ、
其供給需要ノ度ニ由ル、是レ一定ノ原則タリ、例

バ、茲ニ一ノ珍異ナル物アリ、之ヲ購ハント欲スル者、益々多ケレバ、其價益々騰リ、之ヲ買ハントスル者、愈々少ケレバ、其價愈々下ル。又市場ニ大額ノ米アリ、之ヲ買ハントスル者、少ケレバ、米價自ラ低落ス可シ、若シ之ニ反シ、米ノ供給小ニシテ、之ガ需要、大ナレバ、米價漸ク騰揚セザルヲ得ズ、物價ノ高低、凡ソ皆ナ、此ノ如シ。物ノ價、甚ダ貴ケレバ、其需要、次第ニ減ジ、需要、已ニ減ゼバ、其價、漸ク卑シキニ至ル、若シ之ニ反シ、物ノ價、甚ダ卑シケレバ、其需要、次第ニ増シ、需要

次第ニ増セバ、其價、漸ク貴キヲ致ス、此ニ由テ之ヲ觀レバ、物ノ需要ハ、其價ノ貴賤ニ依テ増減シ、物ノ價ハ、其需要ノ増減ニ依テ、貴賤スル者ト謂可シ。

○第六章 物價ハ何ニ依テ定ルカノ事

凡ソ物産ノ價ハ、何ニ依テ定ルヤ、曰、之ヲ知悉セント欲セバ、宜ク先ヅ物價ノ最低點ト最高點トヲ考究ス可シ、物價ノ最低點トハ、何ゾヤ、曰、製産費用ト、製産者ノ通常ノ利益ト、ニ當ル價ヲ謂ナリ、若ク物ノ價ニシテ、此二者ヲ償フ能ハズンバ、

之ヲ製造スル者、無カル可キナリ、人瘋癲白痴ニ
非レバ、則損失アル物産ヲ製造スルナカル可
レバナリ、若シ夫レ、損失アルヲ知テ、而テ尚ホ、此
ニ従事スル者アレバ、是レ特ニ、不得止ノ事情アリ
テ、然ル者ナラン
製産者通常ノ利益トハ何ゾヤ、曰、尋常何ノ業ニ
従事スルトモ、宜ク受ク可キ利益ヲ謂ナリ
物價ノ最高點トハ、何ゾヤ、曰、製産費用ト製産者
非常ノ利益ト、ニ當ル價ヲ謂ナリ、蓋ヒ、物價ノ最
高點ハ、永ク相持テ能ハザルナリ、其理甚ダ解シ

易シ、例バ、今茶ノ價、最高點ニ達シ、之ヲ造出シテ
非常ノ利益アレバ、則多クノ資本、漸ク此ニ注入
シ、他業ヨリ、此業ニ轉ズル者、忽チ加ハリ、以テ遂
ニ、需要ニ超過スル茶ヲ造出スルニ至ル可シ、而
テ、茶ノ供給業已ニ、其需要ニ過レバ、則茶價、必ズ
最高點ヨリ、最低點ニ下ラザルヲ得ズ
若シ之ニ反シ、物價最低點ヨリ下レバ、則之ヲ製
造スル者、他業ニ移リ、其供給ハ、以テ世ノ需要ニ
應ズルニ足ラザルニ至ル、而テ供給已ニ需要ニ
足ラザレバ、物價漸ク上リ、必ズヤ其最低點ニ返

ラザルヲ得ズ

以上ノ理由ヲ以テ觀レバ、物價ノ本位ハ、其最低點ニ居ルニ在リ、即物ノ價ハ、其製産費用、及製産者通常ノ利益ノ二者ヨリ成立スルヲ當然トナス、故ニ之ヲ自然價ト云ス、蓋シ、亦價値ヲ謂フナリ、而テ、自然價ヨリ上下スル價ハ、亦俱ニ市價ト稱スル者ニ外ナラズ

物價ノ本位ハ、價値ナリ、然ルニ、市場ノ實際ヲ見レバ、百貨ノ價、大抵常ニ價値ヨリ下、又ハ上ニ、在ルガ如シ、然バ則、諸物ノ價値ハ、虚價タル乎、曰何

ゾ其レ然ランヤ、試ニ數年間諸物價ノ景況ヲ歴觀セヨ、物價價値ヨリ上下シ、變動窮リナシト雖、抑其勢ノ傾向歸着セントスル所ハ、常ニ那ノ邊ニ在ルヤ、唯是レ價値位ニ在リ、譬ヘバ、價値ハ猶ホ水平ノ如ク、市價ハ、猶ホ風波ノ如シ、夫レ、時ニ風波起レバ、則水面高低ヲ生ズ、然レモ、水面常ニ高低ヲ生ゼズ、水面ノ常態ハ、則其平ナルニ在リ、市價ノ價値ニ於ル、亦是理ニ外ナラザルナリ

○第七章 貨幣ノ用

貨幣ノ用ハ、物ト物ト、ノ交易ヲ媒介辨理スルニ

在以夫レ、貨幣ナキハ、例バ、帽子職ハ、帽子ヲ以テ、米ト易ヘ、米ヲ有スル者ハ、之ヲ以テ、衣ト易ヘザル可ラズ、而テ、若シ帽子ノ價、米ノ價ト相匹敵セザルカ、或ハ、米ヲ有スル者、帽子ヲ買フヲ欲セザレバ、則其不便言フ可ラザル者アラシ、是レ貨幣ノ必要ナル所以ナリ、蓋シ、人ノ貨幣ヲ受用スルヤ、其利、凡ソ三アルニ由レリ

第一 貨幣ハ、何人ニモ適用アリ、例バ、帽子職、帽子ヲ賣テ、貨幣ヲ得バ、以テ其欲スル所ノ物ト易ヘルヲ得可シ、此ニ於テ、彼ノ帽子ヲ欲セザル者

ニ就テ、米ヲ得ントスルガ如キ不便熄ム

第二 「貨幣ハ、大小分ツ可シ、故ニ、之ヲ有スル者ハ、其欲スル所ノ物ニ就テ、其欲スル量ヲ求メ、而テ、不用ノ物ヲ買フノ患ナシ、若シ、貨幣無クンバ、例バ、牛ヲ以テ米ト易ヘント欲スル者ハ、必ズヤ牛ノ全價ニ匹敵スル米ヲ購ハザル可ラズ、而テ、牛ノ半價、或ハ、三分一、ニ均シキ米ヲ買ハント欲スルハ、難事ナル可シ、貨幣アレバ、則此患去ル

第三 「貨幣ハ、物價ヲ定ムルノ標準タルヲ得、今帽子ヲ賣テ米ヲ得ントスル者、或ハ帽子一個

ハ、米幾許ト易フ可キカラ詳ニセズ、又米ヲ賣ラ
ントスル者一斛ノ米ハ、帽子幾個ニ價スルカラ
知ラズンバ、交易ノ至難ナル、亦思フ可シ、或ハ、之
ニ依テ、彼是物品ノ匹敵ヲ争ヒ議スヲアル可シ
貨幣アレバ、此弊ナシ、何トナレバ、百物ミナ、此ヲ
標準トシテ、價格ヲ定ルヲ得ヲ以ナリ

○第八章 金銀ハ貨幣ニ適當ナル事

貨幣ヲ製スルニ、最モ適當ナル者ヲ、**金銀**ト為ス
金銀ヲ貨幣トスルノ利一ニシテ足ラズ、今其二
三ヲ舉示セン

第一 金銀ハ小分スルモ、價ヲ減セズ、故ニ、之ヲ
欲スルマ、ニ分ツ可シ、且ツ、之ヲ分テ又之ヲ鑄
合スルモ、容易ナリ、若シ夫レ、金剛石、其他珠玉ノ
屬ハ、之ヲ破碎セバ、大ニ其價ヲ減シ、且ツ再ビ之
ヲ合スルヲ難シ

第二 金銀ハ、孰レノ國ニ於テモ、其秤量全ク相
同ジ、若シ、其秤量國ニ依テ輕重不同アレバ、交易
上、甚シキ患害アル可キナリ

第三 金銀ハ、磨滅ノ患甚ダ少シ、之ニ少量ノ銅
ヲ加ヘテ、貨幣ヲ鑄造セバ、其質更ニ堅緻ニシテ

通用久シキニ堪ヘル者トス

第四 金銀ハ孰レノ國ニ於テモ、多ク得易スカ
ラズ、而テ其價貴シ、故ニ其小額ヲ以テ、他物ノ大
額ト交易ス可シ、是レ特ニ授受携帯ニ便ナリ

○第九章 金銀ノ増減及ヒ其價值ノ高低
西曆紀元第八紀ヨリ、今日迄、世界各國ノ金銀貨
ハ、通計凡ソ六十倍ノ増額ナリト云フ、此増額ノ
源因ハ、各國各地ヨリ、歳ヲ逐テ、多クノ金銀鑛ヲ
採掘シタルニ在ルヤ、疑ナシト雖、主トシテ此ニ
至ラシメタル者ハ、蓋シ、西曆第十六紀頃ヨリ、南

北米洲ヨリ、巨大ノ金銀鑛ヲ出シタルニ在リ、
夫レ、金銀モ、亦一物品ノミ、他ノ百貨ト異ナルナ
シ、然バ則、均ク供給需要ノ原則ニ制セラレ可キ
ナリ、此ニ由テ言ハバ、西曆第八紀ヨリ、金銀貨ノ
増額已ニ六十倍ナレバ、則其價值モ、亦六十倍ノ
低落ヲ致シタルノ理ナリ、然リ而テ、泰西經濟學
士ノ統計ニ據ルニ、第八紀ヨリ、今日ニ至リ、金銀
貨ノ價ヲ減ジタルハ、僅ニ十一二倍ニ過ズ、抑何
ニ依テ然ルヤ、曰是レ他ナシ、金銀貨ノ増殖此ノ
如クナリト雖、又一方ニ於テ、各國內外百貨ノ交

易月ニ、年ニ、益々進歩シタルニ依テ、金銀貨ノ用、大ニ頻繁ニ趣キタレバナリ

第十章 銅貨

金銀貨ハ、大小分ツ可シト雖、其價ノ貴キヲ以テ、日用瑣々ノ遣拂ニ適スルガ如ク、細分スルコトヲ得ズ、是ヲ以テ、何ノ國ト雖、大概銅貨ヲ製シ、以テ日用些細ノ授受ニ便ス

政府ノ金銀貨ニ制定價〔金銀貨ニ何圓何十錢ト六フガ如クニ通用ノ價ヲ定ム之ヲ附スヤ、殆ンド其金銀固有ノ價値ヲ以テス、然レモ、今銅貨ノ制定價ハ、其地金

ノ價ヨリモ、迥ニ高キ者トス、其理何ゾヤ、曰銅ハ其價ノ卑キ者ナルガ故ニ、若シ地金ノ價ニ準ジテ、制定價ヲ置カバ、其量甚ダ大ニシテ、日用ノ授受携帯ニ、極メテ不便ナルヲ以ナリ

第十一章 紙幣

其物タルヤ、全ク價ヲ有セズ、而テ一國政府ノ權カト、信任ト、ニ依テ寶貨トシテ、國內ニ通用スル者アリ、紙幣即是ナリ、尤ソ政府ノ紙幣ヲ發行スルヤ、内憂外患アリテ、國庫支へ難キカ、或ハ、國內ニ工業ヲ起シテ、大利ヲ致スノ確乎タル目的アリ

ル、等ノ場合ニ於テスル者ナリ

蓋シ、紙幣ハ、原來一時ノ危急ヲ補救スル為ニ發行シ、而テ、政府ノ信任、下ニ厚キニ依テ、通用スル者ナリ、之ニ依テ、左ノ三要アリ

第一 紙幣ヲ金銀貨ト交換スルノ時期、速ナル

ヲ要ス

第二 發行ノ額、人民ノ需要ニ超越セザルヲ要ス

ス

第三 人民ノ信任、政府ニ厚キヲ要ス、

右ノ三要ニ背カザレバ、人民ハ好デ紙幣ヲ通用

ス可シ、何トナレバ、其攜帶ニ、極ノテ便利ナルヲ以テナリ

○第十二章 信約 〔信約トハ信任ノ上ニ立ツ約束ノ義也〕

信約ノ世ニ行ハル、ヤ、大約二様アリ、一ハ、抵當ヲ以テ行ハレ、一ハ、無抵當ニテ行ハル、抵當有テ行ハル、者ハ、其用狭シ、其用ノ大ナルハ、則無抵當信約ニ在リ、凡ソ商估ハ、一般ニ、無抵當信約ヲ慣行利用セリ、

凡ソ歐米ニ行ハル、信約ハ、其種類、甚ダ多シト雖、其最モ盛ニ行ハル、者ハ、曰命令手形、曰為替

手形、曰商品切手、曰荷為替手形、曰會社株券、曰公債證書、曰銀行手形等、是ナリ、今一々之ヲ詳説スルニ違アラズ

○第十三章 信約ノ利

抵當ノ有無ハ、姑ク舍テ論ゼズ、凡ソ信約行ハル、片ハ、直接ニ二ノ大利アリ
第一 信約ハ、大ニ貨幣ノ用ヲ補フ是又二様ノ働ヲ以テス、單純信約、流通信約、即是ナリ、單純信約トハ、帳簿上ノ取引ヲ謂ナリ、凡ソ商人ハ、物貨ノ取引毎ニ、代價ヲ授受セズ、毎月末或ハ毎年未

ニ、互ニ差引計算ヲ為ス

派通信約トハ、何ゾヤ、曰此ニ甲商アリ、乙商ヨリ千圓ノ貨物ヲ買ヒ、即時之ニ拂フ可キ金員ヲ有セズ、此ニ於テ、乙商ニ謂テ曰、予目下千圓ノ貨幣ヲ有セズ、乃チ千圓ノ證券ヲ與ヘ、二箇月後ニ至テ、卿若クハ卿ノ命令スル者ニ拂渡ス可シト、若シ、甲商世上ニ信任アル者ナレバ、乙商速ニ此證券ヲ受取ル可キ者トス而テ、乙商之ヲ筐底ニ藏セズ、證券ノ裏面ニ、讓渡ノ事ヲ書シ、以テ丙ニ與ヘ、丙又同様ノ手續ヲ以テ、之ヲ丁ニ渡シ、尚ホ數

人ノ手ニ流轉シ、而テ二箇月後ニ至テ、最後ノ所持者之ヲ携テ甲商ノ許ニ往キ、貨幣千圓ト交換ヲ求ム、此證券ヲ名テ、命令手形ト謂フ、是流通信約ノ一種ニシテ、歐米ニ盛ニ行ハル者ナリ

第二 信約ハ國ノ資本ヲ停滯セシメズ、茲ニ職工アリ、日々五錢ヲ儲蓄シ、一箇月ニシテ、一圓五十錢ヲ貯積ス、一圓五十錢ノ金員、固ヨリ以テ一業ヲ創始スルニ足ラズ、又茲ニ鑿者アリ、千五百圓ヲ儲蓄ス、以テ一業ヲ開クニ足ルモ、身分ノ許サハル者アリ、然バ職工鑿者、俱ニ其儲蓄ヲ筐底

ニ藏センカ、是レ一國人民ノ為ニ、甚ダ不利ナリトス、然ルニ、今若シ、之ヲ銀行ニ預ケルヲ得、銀行更ニ又之ヲ他ノ金ヲ要スル者ニ貸附ルヲ得バ、此ニ於テ、停滯資本變ジテ生財資本トナリ、無用ノ財、轉ジテ有用ノ地ニ移ル、而テ職工鑿者ハ、其預ケ金ノ利子ヲ受ルガ故ニ、自ラ益スルトモ、亦小ナリトセズ、蓋シ、銀行ノ貸借、又信任ヲ以テ行ハル、ナリ、信約ノ功大ナリト謂可シ

以上ハ、信約ノ直接ノ利ナリ、其間接ノ利、又凡ソニアリ

第一 信約ハ人ノ儲蓄心ヲ獎勵ス、何トナレバ、
日々些少ノ金ヲ儉停シテ、銀行等ニ積ミ置カバ、
利又利ヲ加ヘ、意想外ノ財ヲ形成スルヲ以テ、貧
賤ノ者モ、漸ク喜悦心ヲ起シ、益々費用ヲ節シテ、
儉停セント勵ム可レバナリ

第二 信約ハ、國ノ安寧富榮ヲ進ム、信約益々行
ハレバ、國益々安寧ナリ、蓋シ、國ノ騷擾ハ、多クハ、
貧困無産ノ徒ヨリ起レリ、若シ夫レ、財ヲ蓄ヘ、産
ヲ立ル者ハ、國ノ騷擾ヲ欲セザルナリ、何トナレ
バ、騷擾起レバ、忽チ自己ノ財産利益ヲ害セラレ

、ノ患アルヲ以ナリ、然バ則、信約ヲ鼓舞スルハ、
亦國ノ安寧富榮ヲ進ムルノ長策ト謂可シ

○第十四章 銀行

銀行ノ種類、亦多シ、或ハ專ラ内。外。為。替。手。形。ス。賣。
買。ヲ。為。ス。者。アリ、或ハ首トシテ諸手形割引ニ從
事スル者アリ、或ハ公債證書ヲ賣買スル者アリ、
或ハ紙幣ヲ發行スル者アリ、其他尚ホ數種ノ銀
行アリ、但シ銀行ハ、之ヲ大別シテ、二種トナスヲ
得、公立銀行、私立銀行、即是ナリ
私立銀行トハ、何ゾヤ、曰多クハ、是レ一個人ニシ

テ、信約諸手形ノ割引賣買ヲ為シ、或ハ預リ金又ハ貸金等ヲ、營業トスル者ナリ、公立銀行ハ、紙幣ヲ發行スル一事ヲ除キ、其業務私立銀行ト大異ナシト雖此ハ、一個人ノ立ル者ニ非ズ、數人協合シ、巨額ノ資本ヲ募集シ、會社ノ組織ヲ以テ營業スル者ナリ

○第十五章 公私立銀行ノ職掌

第一 銀行ノ職掌ハ、國內ノ停滯資本ヲシテ、流通資本タラシムルニ在リ、銀行ハ、預リ金ヲナシ、貸金ヲナス、故ニ資本餘アル者ト、欠乏アル者ト、

ノ間ニ立テ、有無ヲ相通ゼシム、第十二章ニ於テ、粗説述シタルガ如シ

第二 「銀行ノ職掌ハ、信約諸手形ノ流通ヲ活潑ナラシムルニ在リ、一例ヲ將テ、之テ説カン、此ニ蒸餅製造職アリ、農夫某ヨリ、五百圓ノ小麥ヲ購ハントス、然ルニ、三箇月期限ナル、五百圓ノ命令手形ヲ所持スト雖、貨幣ヲ有セズ、手形ヲ以テ農夫ニ拂ハンカ、農夫多クハ、手形ヲ喜バズ、此ニ於テ、蒸餅製造職ハ、銀行ニ就キ、手形ト貨幣ノ交換ヲ請ヒ、以テ之ヲ農夫ニ拂フヲ得可キナリ、但シ

手形ノ拂期、三箇月後ナルヲ以テ、銀行ハ、表面ノ金額ヨリ、幾分ノ減額ヲ為シテ、之ヲ引取ル者トス、之ヲ割引ト称ス、今銀行ハ、買取りタル手形ヲ筐底ニ置カズ、應ニ又貸金ヲ請フ者ヲ俟テ、之ニ裏書シテ、金員ノ代ニ之ヲ貸附ルヲ常トス、為替手形等ノ賣買モ、之ニ準知ス可シ

銀行ノ業務ヤ、多端ナリ、然レモ、要ヲ提テ、之ヲ言ハズ、一國ノ停滞資本ヲシテ、流通資本タラシメ、以テ資本ノ有無ヲ通ジ、信約ノ運用ヲ活潑ニシ、以テ貨幣ノ用ニ代ラシムルニ外ナラズ

公私立銀行ノ職掌、大率此ノ如シ、然レモ、其區域ニ就テ論ゼバ、公立銀行ノ業務ハ、私立銀行ノ業務ヨリモ、頗ル廣ク、且ツ大ナリトス、何トナレバ、

一ニハ、私立銀行ハ一個人ノ立ル所ナルガ故ニ、世人ノ信用厚カラズ、公立銀行ハ、會社ノ組織ニシテ、大抵有識正確ノ人之ガ頭取タリ、是ヲ以テ世上ノ信任深シ、二ニハ私立銀行ハ、之ヲ知ル者多カラズ、公立銀行ハ、其名普ク顯ハレ、其設立ノ市街ハ勿論、國內ノ衆人、大概之ヲ熟知スル者ナルヲ以テナリ

銀行ノ用ヤ、大ナリ、蓋シ、凡ソ、用ノ大ナル者ハ、害ノ伏スルモ、亦大ナリ、今若シ、銀行一朝破産セバ、商工業之レガ為ニ、大害ヲ受ク、是ヲ以テ、銀行ハ、多少政府ノ監視檢束ヲ受ケザル可ラズ

○第十六章 外國交易ノ利

凡ソ地球上、東西、各國、風土、氣候、異ニ物情、景態、同ジカラズ、或ハ海國アリ、或ハ山國アリ、或ハ熱地アリ、或ハ寒土アリ、工藝ノ如キ、彼ニ長ジテ、此ニ短ナル者アリ、物産ノ如キ、彼ニ適シテ、我ニ適セザル者アリ、資本ノ如キ、甲ニ優ニシテ、乙ニ不足

ナル者アリ、凡ソ百物、千端、各國、各地、互ニ有無、缺足アリテ、相同シキト得ザルナリ
是ヲ以テ、各國互ニ交易ヲ開キ、有無相通シ、長短相補ヒ、内ハ、自國ノ物産百工ヲ興起シ、外ハ、各國ト交通親睦セバ、則是レ、東西需要ヲ平均シ、彼我幸福ヲ増進スルノ道ト謂フ可キナリ、若シ夫レ、國ノ鎖シテ交通ヲ絶ハ、則我ハ我分ニ安ジ、彼ハ彼ノ分ヲ守リ、各邦互ニ、人生ノ福祉ヲ享受スルト能ハサルノミナラズ、其弊ヤ、常ニ相睥睨シテ、相親睦スルノ期ナカル可キナリ

○第十七章 自由交易、保護交易ノ利害

外國交易ノ利ハ業已ニ上章ニ示シタルガ如シ、然リト雖、外國交易モ亦純利純益アル者ニ非ズ、時勢ト國狀トニ隨テ其弊害ナキト能ハザルナリ、此ニ於テ乎、學者ノ議論沸然トシテ起リ、自由交易、保護交易ノ二派ニ分カル、而テ、各一方ニ固執シテ、動クトナキ者ノ如シ、自由交易トハ、彼我物産ノ交易輸出入ヲ、其自然ニ委シ、自國ノ物産モ、人民ノ為スマ、ニ任ズルノ謂ナリ、保護交易トハ、内國ノ物産ヲ低價ニ販

賣セシメ、爲ニ外國ノ輸入品ニ若干ノ稅ヲ賦課シテ、其物品ヲ高價ナラシメ、或ハ自國ノ物産製造ヲ保護助成シテ、外國品ニ壓セラレ、ト、無カラシメントスルニ在リ

外國交易ハ、孰レノ主義ヲ利トスルヤ、曰自由、保護交易ノ利害未ダ言ヒ易カラズ、應ニ時勢ト國狀トヲ詳ニシテ、而テ後ニ之ヲ言ベ、是レ之ヲ顧ズシテ、漫然此ハ利ナリ、彼ハ害アリト、言フ者ハ、則座上ノ空論ノミ

○消糜編

○第一章 有用消糜、無用消糜ノ事

消糜ヲ大別シテ、二種ト為ス、無用消糜、有用消糜、即是ナリ、無用消糜トハ、例バ人ノ物ヲ飲食スルガ如ク、單ニ之ヲ消糜スルノミニシテ、以テ他物ヲ生ズルヲナキノ謂ナリ、有用消糜ハ、則之ニ反シ、物ヲ消糜スト雖、之ニ依テ、他ノ一層要用ナル物ヲ造出スルノ謂ナリ、例バ、綿絲ヲ消糜シテ綿布ヲ製造シ、鐵ヲ消糜シテ、鋏、鋤、銃、炮、刀、劍、或ハ其他ノ器械ヲ製造スルノ類是ナリ

無用消糜ハ、直接ニ人ノ需要ニ應ズ、例バ、物ヲ飲食セバ、則以テ直ニ口腹ノ欲ヲ達スルガ如シ、有用消糜ハ、間接ニ人ノ需要ニ應ズ、例バ、綿絲ヲ消糜シテ、綿布ヲ製造セバ、綿絲直ニ人ノ需要ヲ充サズ、綿布ト為テ、而テ後ニ實用アルガ如シ、蓋シ有用消糜ト、無用消糜トハ、固ヨリ物質ニ依テ分ル、ニ非ズ、之ヲ用ル如何ニ由ルナリ、例バ、若干斤ノ石炭アリ、若シ室内ニ温熱ヲ起サン為ニ、之ヲ暖爐ニ投ジテ消糜セバ、則是レ無用消糜タリ、若シ刀劍ヲ製造セン為ニ、之ヲ燃テ、鐵ヲ熔解セ

バ、則是レ有用消費タルガ如シ
無用消費ハ世ヲ益スルヲナシ、國ノ富ヲ致スハ
則有用消費ノ盛ナルニ在リ、今夫レ、鐵棍ヲ以テ
鋤鋤ヲ造リ、鋤鋤ヲ使用シテ米麥ヲ作レバ、鋤鋤
ハ、鐵棍ヨリモ貴ク、米麥ハ鋤鋤ヨリモ更ニ要用
ナリ、富ヲ興シ、財ヲ充ルハ有用消費ノ盛ナルニ
在ルヲ推テ知ル可シ

○第二章 消費ノ二注意

第一 文明ニシテ、勉勵ナル人民ハ、野蠻ニシテ、
懶惰ナル人民ヨリモ、數倍多量ノ物ヲ消費ス、何

トナレバ、前者ハ、後者ヨリモ甚ダ巨額ノ貨物ヲ
製造ス、而テ、物ヲ製造スルノ目的ハ、大概又之ヲ
消費スルニ在ルヲ以テ、一個人ニ就テ言フモ
亦然リ、貧者ノ消費ハ、富者ノ消費ニ及バサルヲ
言フ俟ズ、然バ則、消費ノ多キハ、生財盛ナルノ結
果ト謂可キナリ

第二 洋ノ東西ヲ問ハズ、凡ソ諸道諸教皆ナク、
欲知足ノ要ヲ説カザルナク、寡欲ヲ以テ、道德ノ
基トセリ、今之ヲ經濟學理上ヨリ論ゼンニ、此説
タル、蓋シ、一分ノ理ナキニ非ズ、何ゾヤ、曰人若シ、

欲望ヲ達スルニ、正當ノ道ヲ以テセズレテ、徒ニ多欲ナレバ、則遂ニ弱肉強食トナリ、人類社會ノ禮儀、道德ハ、咸ク湮滅シテ、搏噬爭鬪ノ禽獸世界ト化ス可キヲ以テナリ、其レ然リ而レモ、多欲ヲ以テ直ニ惡徳ト謂可ラズ、多欲ヲ達スルニ、正當ノ道ヲ以テセバ、則是レ帝ニ惡徳タラザルノミナラズ、亦社會ニ重要ノ善徳ト稱ス可キナリ

○第三章 消費ハ製産ノ方向ヲ示ス事
製産者能ク消費者ノ嗜好ヲ定ムルニ非ズ、消費
者ノ嗜好能ク製産者ノ方向ヲ示ス、是レ物ノ常

則ナリ、故ニ物ヲ製造セント欲セバ、須ク先ツ、何物カ、最モ能ク消費者ノ需要ニ適スル、如何セバ、其嗜好ニ應ズルカヲ察ス可キナリ、一國消費者ノ需要ヲ考察セズシテ、其嗜好ニ應セザル物品ヲ其地ニ輸シ、以テ大ニ損害ヲ受ケタル者、其例甚キニ非ズ、是亦、商估タル者ノ宜ク常ニ服膺ス可キ事トナス

○第四章 消費増減ノ原因

一國人民ノ消費何ニ依テ増ス乎、曰其原因一ニシテ足ラズト雖、其尤ナル者ニアリ

第一 物ノ價低下セバ、則消費増ス、近キ例ヲ舉
レハ、我邦ニ於テ、凡ソ十年前後ノ頃ハ、早附木ノ
價、今日ニ比スレバ、殆ンド五倍ノ高値ナリシ、是
ヲ以テ、之ヲ消費スル者、寥々タリ、然ルニ、爾來其
價格ノ低下スルニ隨テ、之ヲ使用スル者、益々加
ハリ、今ヤ、其消費ノ驚ク可キ額ニ達シタルヲ以
テ知ル可シ

第二 課税輕減セバ、則消費増ス、蓋シ、課税ノ大
小ハ、直ニ物價ニ影響スル者ナリ、故ニ物ノ課税
輕減セバ、其價隨テ低落ス、而テ物價低落セバ、則

其消費ノ増ス、大概前例ノ如シ

○第五章 消費製産、互ニ相鼓舞スル事
物産ヲ消費スル者、多ケレバ、製産者ハ、益々之ヲ
造出シテ、以テ其利ヲ收メントスル、更ニ論勿
キノミ、而テ消費者、固ヨリ亦袖手シテ、之ヲ得可
キニ非ズ、故ニ物産出レバ、之ヲ得ントスル者、各
自業務ヲ勵ミ、勤勞ノ結果ヲ以テ、其欲望ヲ達セ
ガル可ラズ、是ヲ以テ、消費ハ、物産ヲ獎勵シ、物産
亦消費ヲ鼓舞ス、トノ原則アリ

○第六章 法律ハ消費者ヲ保護スル事

製産者ノ利ト、消糜者ノ利ト、ハ正ニ相反スル者ナリ、例バ、薪炭ヲ製スル者ノ利ハ、冬時互寒凜烈ナルニ在リ、之ヲ消糜スル者ノ利ハ、寒冷嚴ナラザルニ在リ、農夫ノ利ハ、米麥等ノ高價ナルニ在リ、之ヲ消糜スル者ノ利ハ、其低價ナルニ在リ、兩者ノ利ノ相反スルヤ、凡ソ皆此ノ如シ、今法律ハ、孰レノ利ヲ保護スル者ナル乎、曰法律ノ精神ハ、消糜者ノ利ヲ保護スルニ在ル者トス、何トナレハ、法律ノ目的ハ、人民ヲシテ、諸ノ需要ヲ達セシムルニ在ルヲ以テナリ、法律或ハ時ニ製産者ヲ

保護ス、然レモ、是亦必竟消糜者ヲ保護スルニ出ザル可ラザルナリ

○第七章 郵便電信

郵便ト、電信ト、ハ公、私、細、大、ノ要事、思想ヲ疏通スルノ重具ニシテ、文明ノ鍵鑰ナリ、一日之レ無クシバ、一日社會百事ノ澁滯ヲ來シ、十日之レ無クシバ、十日事物ノ阻礙ヲ致ス可シ、况ヤ戰乱事變ノ起リタル、非常ノ時ニ於テヲヤ郵便ト、電信ト、ハ自由ノ營業タル可ラズ、今夫レ一萬ノ書牘音信ヲ通ズルモ、十萬ノ書牘音信ヲ

通ズルモ、其發送配達等ノ費途ハ、大差アルナ
シ、則殆ニド同數ノ郵便電信局ヲ布置セサル可
ラザルナリ、電線柱、配達夫モ、又書信ノ多少ニ隨
テ、増減スルヲ得可キ者ニ非ズ、其レ然リ、故ニ若
シ、二ノ業、自由ニシテ、之ニ從事スル者、二人起レ
バ、則其費用モ二途ニ分レ、而テ、其一途ハ全ク無
益ノ費タル可シ、是レ國ノ一大損失ナリトス、且
夫レ、之ヲ人民ノ自由ニ任ゼバ、書信ノ發送賃モ、
自ラ増加シ、以テ大ニ書信快通ノ便ヲ妨ク可シ、
是レ二者ハ、自由ノ營業タル可ラザル所以ナリ

○第八章

郵便電信ハ政府ノ業務タル事

郵便電信ハ、自由ノ營業タル可ラザルハ、上章ニ
述タルガ如シ、然バ之ヲ一個人、又ハ一會社ニ營
業セシメンカ、曰否ナ、二者ハ、政府ノ業務タラザ
ル可ラズ、蓋シ一個人、一會社ハ、固ヨリ私利ヲ專
トシ、公利ヲ顧ル念ノ薄キ者ナリ、故ニ、之ニ二者
ヲ營業セシメバ、都府市街等ノ書信發送ノ頻繁
ナル地ニハ、縱横電信柱ヲ樹テ、東西郵便線路ヲ
張り、敢テ人民ノ利便ヲ欽ガル可シト雖、人烟稀
疎、書信寥寥タル僻地邊陲ニハ、損益相償ハザル

ヲ以テ、之ヲ設立セサルヤ、必セリ、是レ一國ノ不利不便ナリ

政府ノ業ハ、之ニ反シ、專ラ公利國益ヲ之レ計リテ、敢テ官衙ノ私利ニ汲々セザルガ故ニ、邊村陬邑ト雖、普ク電線郵便路ヲ通ジ、以テ、一國全體ノ利便ヲ達セシムルヲ得可シ、是レ二者ハ、政府ノ業務ニ歸セザル可ラザル所以ナリ、現今何ノ國ト雖、郵便ハ、政府ノ業務ニ屬ス、電信モ米國ヲ除クノ外ハ、又皆ナ然リト云フ

○第九章 鐵道

國ニ鐵道ノ要用ナルハ、人自ラ皆ナ之ヲ知レバ、今特ニ喋々ヲ要セズト雖、之ヲ一言セバ、鐵道ノ利ハ、人物運輸ノ時ト、費用ト、ヲ省略セシムル者、即是ナリ、今夫レ、貨物ヲ輸送シ、又ハ旅行ヲスルニ、牛馬、又ハ、尋常ノ車ヲ以テセバ、其費用、鐵道ヲ以テスルヨリモ、數倍多キヲ要シ、時日ヲ空費スル、亦十倍已上ニ在ル可シ、而テ、之ニ依テ、商工百事ノ伸張ヲ妨ル、果シテ幾許ゾヤ、鐵道ニ依テ、人物ヲ運輸セバ、時日ヲ約シ、費用ヲ省ク、大ナリ、故ニ、人事百業開通シテ、阻滯スルヲナカラシム

○第十章 鐵道線路ノ規畫築造ノ事

鐵道線路ハ、政府宜ク之ヲ規定ス可シ、若シ、會社ヲシテ之ヲ規畫セシメバ、則自ラ利ナリト信ズル處ニ隨テ、之ヲ為シ、遂ニ不便不整ノ線路ヲ縱横スルニ至ルコトアリ、是レ現ニ、英米ニ於テ、人ノ實驗スル所ナリ、若シ、政府之ヲ規定セバ、則此弊害ナキヲ得可シ

線路ハ、政府業已ニ之ヲ規畫ス、今其築造ハ、亦自ラ之ヲ為ス可キ乎、或ハ會社ヲシテ之ヲ為サシメン乎、曰、會社ヲシテ之ガ築造ニ任ゼバ、或ハ政

府ノ規畫セル線路ヲ利トセズ、或ハ將來ノ損益ヲ疑ヒ、或ハ資本乏ヲ告ゲ、畢竟速ニ其竣工ヲ期シ難シ、此ニ由テ言ハシ、政府又宜ク之ヲ築造ス可キナリ、然レモ、泰西諸邦ニ於テハ、政府幾分ノ保護ヲ會社ニ與ヘ、以テ之ヲ築造セシムル者多シ、其保護如何シ、曰、或ハ線路ノ地面ヲ無代ニテ貸與シ、或ハ資本金ノ幾部ヲ貸シ下ゲ、或ハ株主ノ利益ヲ補フ、等、是其通例ナリ、此法、蓋シ、最モ事宜ヲ得タルニ似タリ

○第十一章 鐵道營業ノ事

鐵道瀛車運轉ノ業ハ、政府ノ業ニ屬ス可キ乎、或ハ會社ヲシテ之ヲ為サシム可キ乎、曰、是亦國狀ニ依テ一概ニ論斷シ難シト雖、暫ク今日學者多數ノ說ニ依テ言ハゞ、鐵道ハ、會社ヲシテ營業セシム可キナリ、但シ此ニ三ノ要件アリ

第一、鐵道會社ハ、組織確乎資本乏シカラザル者タル可シ

第二、若シ數條ノ鐵路ヲ數會社ニ營業セシムレバ、瀛車ノ發着時間乘車賃表ハ、政府之ヲ規定ス可シ、若シ然ラザレバ公衆ノ不便ヲ醸ス可シ

第三、戰亂事變ニ際シテハ、政府ハ、一時隨意ニ兵器軍用品等ヲ運輸スルヲ得可シ、政府鐵道ノ所有主タレバ、此時ニ際シテ、一時隨意ニ之ヲ返還セシムルノ規約アル可シ

○人口編

○第一章 人口ノ多寡ハ國ノ富強ニ關ス人口多ケレバ、則兵力養フ可ク國威張ル可ク土地拓ク可ク、物産殖ス可シ人口少キ乎、設令ヒ版圖大ニ、人民善ク一致協合スト雖、生靈多キ大國

ト其富強ヲ競フ、蓋シ難カル可シ、是ヲ以テ、中世惟武ヲ之レ尚ブノ時ニ當テヤ、何ノ國ト雖、人口ノ加ハルヲ以テ、國家無限ノ祥兆ト為シ、因テ以テ國威ヲ張り、四隣ヲ懾服セントシ、甚シキニ至テハ特ニ法律制度ヲ設ケテ、以テ之レガ増殖ヲ獎勵鼓舞シタル者アリ

人口ノ増殖ヲ以テ、國家ノ祥兆トセシ、近世ニ至ルマデ萬口一談タリ、然ルニ、西曆一千八百三年、英國ニマルチユスナル人出テ、大ニ異説ヲ提出シテヨリ、之ニ左祖スル者、漸ク加ハリ、今日ニ

迄デハ、學者中之ヲ是トスル者ト、之ヲ非トスル者ト、其數殆ンド相半バスルニ至レリ

○第二章 マルチユス氏ノ人口論

マルチユス氏ノ説ニ曰、人類ノ生殖ヲ妨礙スル者ナクンバ、則凡ソ二十五年毎ニ、其數倍增ス可キ者ナリト例バ、一千八百年ニ、地上ノ人口、通計二億萬ナリトセバ、一千八百二十五年ニハ、相倍シテ四億萬トナリ、一千八百五十年ニハ、更ニ相倍シテ八億萬トナリ、尚ホ二十五年ヲ經ル毎ニ、相倍增シテ、窮極ナカル可キ者トス、然リ而テ其

此ニ至ラザル所以ハ、他ナシ、唯之ヲ妨礙スル者
アルニ由テナリ、之ヲ妨礙スル者何ゾヤ、曰、飢饉、
變災、戦乱、争鬪、傳染病、衛生術不完全、肉食過欲、等
即是ナリ

夫レ、人口ノ繁殖ヲ妨礙フル、此ノ如キ者アリト
雖、年ヲ經ルニ隨テ、其數ヲ増ス、ハ、固ヨリ疑フ
可キ者ナシ、況ヤ世運ノ開進ニ隨テ、鑿學、衛生術、
開ケ、政事、法律、モ改良ニ趣キ、戦乱、争鬪、モ漸ク其
跡ヲ收メ、以テ此妨礙物ヲ減ゼントスルノ勢ア
ルニ於テヲヤ、果シテ然レバ、則後世最モ恐ル可

キ者アリ、何ソヤ、曰、人口増殖ノ速ナル、此ノ如ク
ナリト雖、地カ物産ハ、之ニ伴フテ増ス、ハ、能ハザ
ル者、即是ナリ

人口増セバ、則又勤勞ノ供給増ス、更ニ疑ナシ、
然リト雖、資本ト、土地ト、ノ二者之ニ隨テ又増ス
トヲ得可キ乎、假令ヒ數十年間ハ、之ヲ増ス、トヲ
得ト雖、永劫萬代決シテ然ル、能ハザルハ、理勢
固ヨリ明カナリ、例バ、一千九百年代ニ當リ、渾圓
球上ノ人口通計、二億萬ナリ、而テ漸次増殖シテ、
二千年代ニ迄ビテハ、八億萬ノ多ヲ致シタリト

假想セバ、則此人口ノ大數ニ應ズル衣食百貨ヲ得可キ乎、蓋シ没シテ期ス可ラザルナリ。人口増殖ノ結果、洵ニ此ノ如クナレバ、至竟衣食匱乏シテ、飢寒ニ死スル者、續々相望ノ慘景ヲ世界ニ現スルハ、甚タ遠キニ非ル可シ、是豈恐懼ス可キノ極ニ非ズヤ、然バ之ヲ如何セバ則可ナラシム、曰法律ヲ以テ、人ノ婚期ヲ遅々タラシム、是レ庶幾クハ、患ヲ未然ニ防グノ一策タランカト、是レマルチユス氏并ニ之ヲ祖述スル者ノ人口論ノ概畧ナリ

○第三章 人口ヲ増殖セシム可キ事

唯理ヲ推シテ之ヲ言ハゞ、マルチユス氏ノ人口論或ハ當ラズト雖、遠カラザル者アラン、然リト雖、理論ハ今姑ク舍キ、專ラ實際實狀ニ就テ論ゼンニ、人口少キ國ハ、則獨立ノ基堅カラザルナリ、人民ノ福祉厚カラザルナリ、人口多キ國ハ、則窮然トシテ頭角ヲ顯シ、國光國威旭日ノ瞳々タルガ如キ者ア、以然バ則、人口少キ國ハ、務テ之ガ増殖ヲ謀ル可シ、人口多キ國ト雖、豈亦之ヲ忽諸ニ附シテ可ナランヤ

茲ニ國アリ、人口ノ増殖スル、甚ダ速カナルモ、尚
ホ憂トスルニ足ラザル乎、曰、地ニ遺利アリ、物ニ
遺業アル國ニ於テハ、啻ニ之ヲ憂ルニ足ラザル
ノミナラズ、應ニ之ヲ賀ス可キナリ、縱使ヒ荒蕪
殆ンド皆ナ開ケ、人民産業ノ裕餘ナキガ如ク見
ユル國ト雖、今ノ時ハ、未ダ遺利遺産ノナキ國ア
ルヲ知ラズ、何トナレバ、文運進ミ、學藝開ケルニ
隨テ、未發ノ工夫、無前ノ發明、競ヒ起リ、礪确ノ地、
變ジテ肥沃ノ土トナリ、無用ノ物、轉ジテ有用ノ
物トナル、是レ方今宇内ノ通勢タレバナリ

夫レ、千百年ノ未來ハ、邈漠トシテ豫知ス可ラザ
ルナリ、惟現今ノ大勢ヲ將テ論ゼバ、人口ノ増殖
ハ、國ノ祥瑞ナリ、法律制度ヲ以テ、之ヲ保護セザ
ル可ラズ、而テ、民衆國ニ充溢セバ、則宜ク新ニ植
民地ヲ開キ、以テ國ノ富強ヲ謀ル可シ、亦何ノ憂
ルトカ之レ有ランヤ

○小學經濟訓卷之下 大尾

明治十五年九月四日板權免許

著者
出版人

東京府士族

大谷權二郎

京橋區八官町十八番地



東京銀座四丁目

博分本

大坂心齋橋通南久寶寺町四丁目

千葉縣下千葉

埼玉縣下浦和

同分

社社社社

發賣所

定價四拾錢

W U /
D 84 (2)